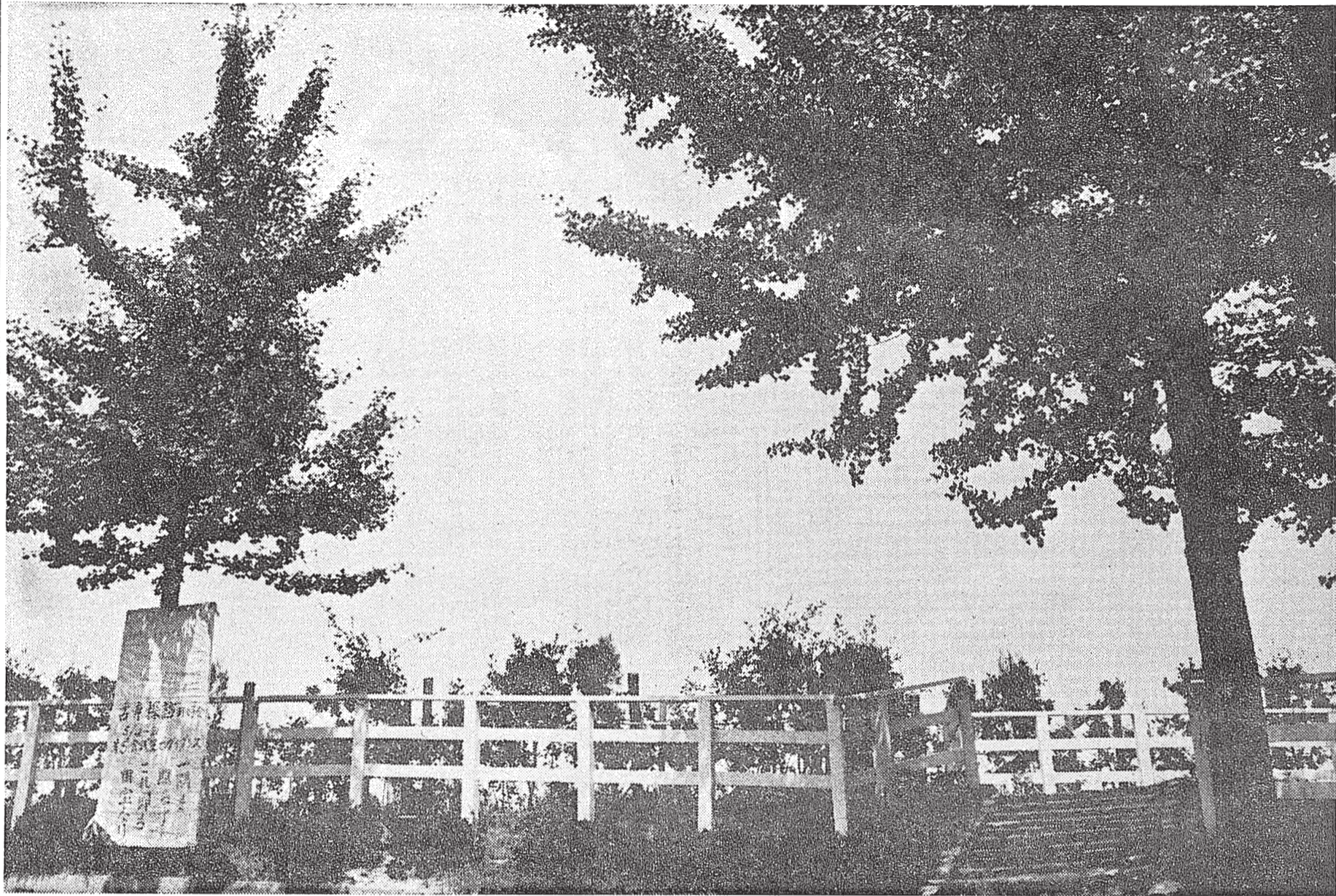


第76号  
広報委員会発行

# 関西大学通信

大阪府吹田市山手町3丁目  
関西大学広報委員会



## 九月の風

橋本昭一

太陽が八月の輝きをまったく失ったわけではないけれども、地を衝く風はもう夏のものではない。秋がまず風からやってくるとは、古代の歌人も詠っている。みあげれば空にはまじりこまない秋の雲がある。

### 韻きめつものよ晩夏の雲と水

信子

多佳子な雲あとの関西俳壇を代表する女流俳人は「詠つ。大学の庭に何本もある樟の大樹の下に立てば、九月の風が肌をうつ。この樹の下で、夏の日々、スリッパでベンチを叩きつづけていた女学生も、そろそろ試験勉強にとりかかっているのだろうか。秋も深まれば、彼女もさぞどこかのホールで、ドラムを二度か二度叩くことになるだろう。七月の蝉声に負け、何度もスリッパを手に持っていた彼女にとって、この夏は苦しい夏であったかもしれない。しかし研究室へ通う道すがら、毎日のように彼女の練習室をみかけるにつけ、あるいはこの夏は彼女にとって人生でもっとも充実した夏であったかもしれないと思う。

私はまた何度か阪急電車や国鉄の車内で、部族を先頭に、合宿へ出かけるあるいは合宿を終え学戻る一団に出会った。かれらは一様に目を見やり、あるいは誰かにかかす車中で眠りこけていた。関西大学〇部の部族も、ときにはたたりなく傾むかせて。かれらは充実した朝夕を共同所有した満足感に浸り、この一瞬激しい緊張から解放されているのであろうと思った。

### 腰みせてゆく、いつも何か動く森

昭一

なにも恐れず、ひとつの道をつきすすんでゆく若者が姿を消せば、大学は無価値な存在になってしまった。降り注ぐ夏の太陽のもとで、吹き荒ぶ寒風のなかで、ひたすらグラウンドの石階を降り降りする青年たちも、いま九月の風が吹くなか、取得単位の計算に胸を痛めているかと思うと、教師たちもさびしい甘い息を吐いた。そういう誘惑と戦ったのも、もう大分昔のことである。

### 茄子うてる 秋は真っ青な色被てくる

宜枝

坂野宜枝は私の好きな俳人の一人である。同じ作者の「霧に煙って花嫁の眉 映を鏡」が私の愛唱句のひとつであるといえは、私の精神年令も判つてしまう。青春という言葉が、なんだかまはやく、記憶から抜け落ちてゆくようにも感じる夏の日々、大学の庭のまじりこまない学生諸君の姿を目に留めるにつけ、たまたま一瞬とはいえ私の胸底にも透りぬける甘さ、思ひ、幻影に似た思いが復活する。七・八月の猛暑のなか、なにかに青春をかけた若者たちが、九月の風のなかでたじろぎ大学に戻ってくる。

### もつと長い松葉をと 二十歳の森に昏れ

昭一

ゼミの学生諸君からの暑中見舞の葉書が、今年は何年になく多数届いた。それらが伝えるのは、自動車教習所への通学とアルバイトであった。そういえば私の目に触れない学生諸君の多くが、アルバイト生活でこの夏をすごしたのであろう。秋、九月の風のもと、かれらは蓄わえた資金でなにを買い求めるのであろうか。青春の貴重な一夏、アルバイトの体験がかれらにとって無駄なものではなく、新しい生活の糧となることを願わずにはおれない。

九月の風は、梅いをもつ着にこぼれ、冷たい風かもしれない。かれらは友人の励まし声の音が「番だ。梅いなき秋を、これは私が永年心にかけてきたモットーのひとつである。夏休みのスケジュールをほぼ終えて、私はいま九月の風に快く立ち向かおうと思う。

私が大学に赴任したときには、またなかつた正門への道のいちよう並未が、いまは空をささぐるほどに重なりあつて響いている。この木から銀杏の実がぼろぼろ落ちるころ、今年も大阪の街で沢山の発表会や公演が、学生たちによって開催されるだろう。学部祭も連帯すれば、大学祭的なものが期待できる。そうすれば建物の一部は学内でも行なわれることになる。今年は私も学生諸君から招待を買って、会場へ出かけてみようと思う。

できれば管弦楽団の発表会で、彼女の姿をみつけたいものである。髪を束ねて、破れたカーバンをはいくわいては、きつと顔別できつて思ふ。

### 行手背後に水音充足 銀杏の町

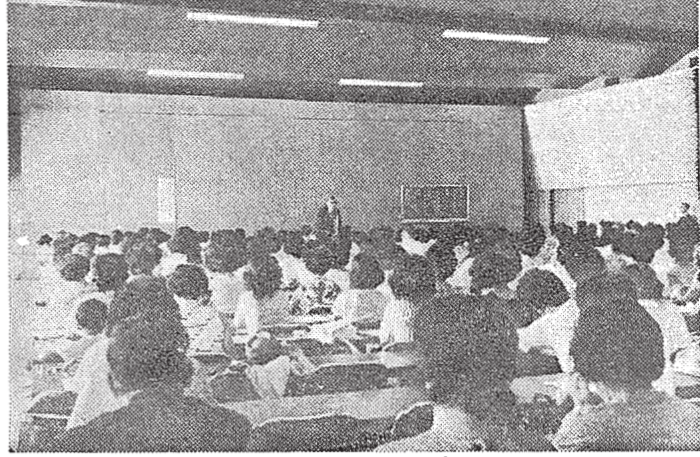
公子

(経済学部助教授 俳誌「青玄」同人)

▼二カ月間の夏期休暇が終わって、二万五千名に近い学生達が、続々と千里山・天六のキャンパスに戻ってきた。休みを勝手に延長した者や、休みの終わりにまだうかない御仁がいるかもしれないが、友人の適切な助言が必要である。このころ急にあつた関大前の喫茶店にも客があふれて、休み中は独占していた私の席もなくなつてしまつた。▼大学前の喫茶店群は、その商魂はともかく、キャンパスの延長として一定の役割を果たしている。学内に近い場所の少ないことが、大学前の喫茶店を繁盛させているともいえる。もつとも、換気の悪い狭苦しい空間に、原価数倍のコーヒーを求めざる者達の真意は、サテン病に罹つてはしごをしたことのない人には理解できないかもしれない。▼ドイツに留学中、三カ月の夏休みを利用して、存分に旅行したことを思い出す。皆、思い思いにギリシャ・イタリア・南仏・スペインへと繰り出し、日焼けした顔で戻ってきた。ウアラワン(休暇)とヌーベル(家具)がドイツ人の生活意欲を支えているといわれていたが、そのウアラワンも今や旅行の代名詞になつており、遊離離旅行をしなければ肩身が狭いようにならぬ困窮感を感じられた。もつとも大学の教員も、夏期休暇用に仕事をためるようなことはしてはなかつた。▼ひとりのなにかキャンパスと関大前の喫茶店とで、休みらしくない二カ月を過ごせるをえなかつた夏が終わつて、若干さびしい感じがしないでもないが、皆それぞれの夏を過ごすもまた仕方がない。ともあれ「夏休みはいかがでしたか」という時候のあいさつもひとりで交し終つた今、(前期試験をひかえて)諸兄の夏の成果に期待している。(K・A)

市民と交流深める

吹田市民大学教養講座ひらく



6年目を迎えた吹田市民大学教養講座

吹田市民大学は、市民の啓蒙と大学の開放を図るため、吹田市民教育委員会と連携して、吹田市民大学教養講座を開講してきた。本年も一般成人を対象に、9月1日から吹田市民大学において開催された。6年目を迎える同講座は、市民の心を開く重要な役割を果している。

▲本年度の講座は、吹田市民教育委員会と連携して、吹田市民大学教養講座を開講してきた。本年も一般成人を対象に、9月1日から吹田市民大学において開催された。6年目を迎える同講座は、市民の心を開く重要な役割を果している。

▲本年度の講座は、吹田市民教育委員会と連携して、吹田市民大学教養講座を開講してきた。本年も一般成人を対象に、9月1日から吹田市民大学において開催された。6年目を迎える同講座は、市民の心を開く重要な役割を果している。

### 改革へ活発な議論

#### 第一部リーダーズキャンプ

二部生に先立って第一部のリーダーズキャンプが、9月10日（土）に開催された。このキャンプには、学生執行部が一般生との連携を図り、学生自治会としての役割を果たすことについて、活発な議論が行われた。

このキャンプには、学生執行部のリーダーたちが参加し、学生自治会としての役割を果たすことについて、活発な議論が行われた。

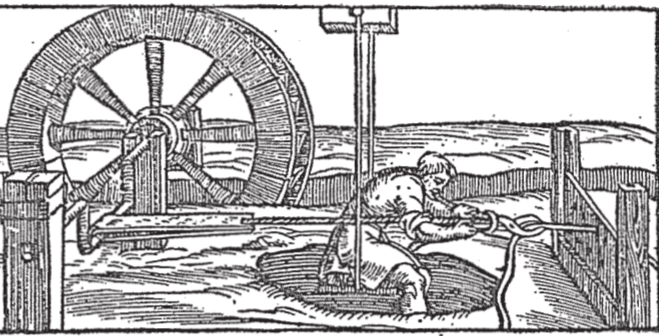
所属	氏名	期間	主任
法学部教授	村井正	一年	主任
文学部教授	小川雅也	一年	主任
文学部教授	加藤一期	六月	主任
文学部教授	山本泰	三月	主任
文学部教授	小杉毅	一年	主任
文学部教授	保田芳昭	六月	主任
社会学部教授	小谷勇男	一年	主任
社会学部教授	神谷昭	六月	主任
工学部教授	森中佐和子	一年	主任
工学部教授	甲斐大	三月	主任

技術の今昔

機械加工のふりい昔

約半世紀前、西遊記が海外に紹介された。その頃、日本の技術は、大工、鍛冶、織物など、手作業によるものが多かった。しかし、戦後の高度経済成長に伴って、機械加工技術は急速に進歩し、現代の産業を支える重要な技術となった。

この講座では、機械加工の歴史と最新の技術について、田中行雄氏が詳しく解説する。



この機械は、水車を利用して動力を得るもので、昔ながらの技術の粋を集めた傑作である。現代の機械加工技術の基礎となる重要な装置の一つである。

前期特別講座

総合コース「部落解放論」

大学と「地名総鑑」



地名総鑑

地名総鑑は、日本の地名とその由来、歴史などを網羅的に収録した辞書である。この講座では、地名の文化と歴史について、詳しく解説する。

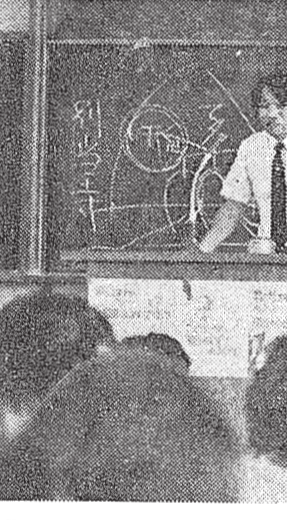
部落解放運動と大学

大賀正行氏は、部落解放運動と大学の関係について、独自の視点から論じている。彼は、大学の社会的責任と、部落問題の解決に向けた取り組みについて、詳しく分析している。

大賀正行氏は、部落解放運動と大学の関係について、独自の視点から論じている。彼は、大学の社会的責任と、部落問題の解決に向けた取り組みについて、詳しく分析している。

大学と部落問題

村越末男氏は、大学と部落問題の現状と課題について、詳しく論じている。彼は、大学の役割と、部落問題の解決に向けた取り組みについて、詳しく分析している。



この講座では、大学の役割と、部落問題の解決に向けた取り組みについて、詳しく分析している。

# 生活の変貌と福祉

菅部 猛利



保育所の需要は年々増加し、その対策に各自治体とも苦慮している

わが国都市は、昭和51年の国勢調査によれば、人口が1億2,000万人を突破し、そのうち都市人口は7,000万人に達した。これは、戦後最大の人口増加であり、都市化の進展を示している。この都市化に伴って、生活の変貌と福祉の問題が深刻化している。

都市化の進展は、人口の集中を招き、都市圏の拡大をもたらしている。これにより、都市圏の行政と都市圏の形成が重要な課題となっている。都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。

都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。

# 都市問題めぐって

都市問題は、現代社会の重要な課題の一つである。都市化の進展に伴って、都市圏の形成と行政が重要な課題となっている。都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。

都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。



# 都市と農村との対話

生田 靖



生産者米価と消費者米価が毎年問題となっているが...

都市と農村との対話は、現代社会の重要な課題の一つである。都市化の進展に伴って、都市圏の形成と行政が重要な課題となっている。都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。

都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。

# 都市圏の形成と行政

田村 浩一

都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。

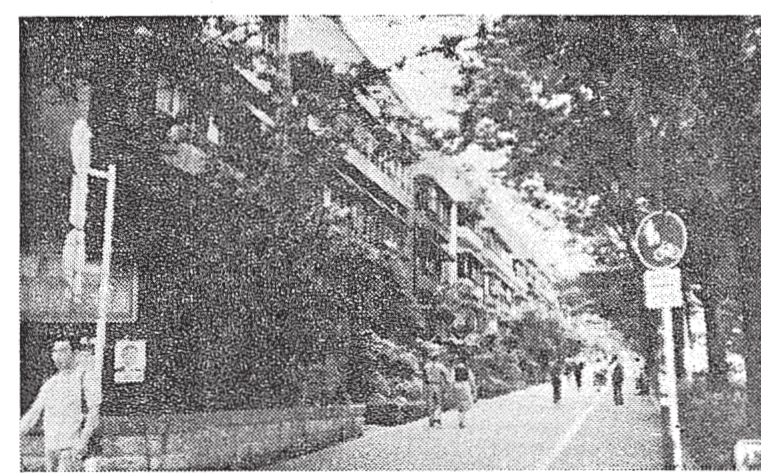
都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。



昼夜の人口流動が激しい都市圏

# 都市問題と後藤新平

野々村 五四男



山本アール会館

都市問題と後藤新平は、現代社会の重要な課題の一つである。都市化の進展に伴って、都市圏の形成と行政が重要な課題となっている。都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。

都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。



深刻な都市の水問題

深刻な都市の水問題は、現代社会の重要な課題の一つである。都市化の進展に伴って、都市圏の形成と行政が重要な課題となっている。都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。

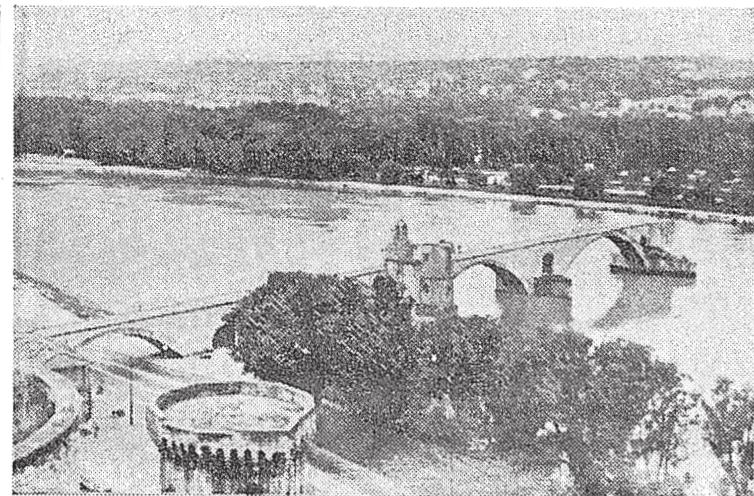
都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。

# 水問題の解決を求めて

寺尾 晃洋

水問題の解決を求めては、現代社会の重要な課題の一つである。都市化の進展に伴って、都市圏の形成と行政が重要な課題となっている。都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。

都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。都市圏の形成と行政は、都市圏の発展と福祉の向上に不可欠である。



# 遠い夏

土曜日の早朝、想像をめぐらす「遠い夏」を、遠くを歩いた人々の足音を聞きながら、懐かしい情景が脳裏に浮かぶ。昔、遠くを歩いた人々の足音を聞きながら、懐かしい情景が脳裏に浮かぶ。昔、遠くを歩いた人々の足音を聞きながら、懐かしい情景が脳裏に浮かぶ。

「遠い夏」は、遠くを歩いた人々の足音を聞きながら、懐かしい情景が脳裏に浮かぶ。昔、遠くを歩いた人々の足音を聞きながら、懐かしい情景が脳裏に浮かぶ。

ある、遠くを歩いた人々の足音を聞きながら、懐かしい情景が脳裏に浮かぶ。昔、遠くを歩いた人々の足音を聞きながら、懐かしい情景が脳裏に浮かぶ。

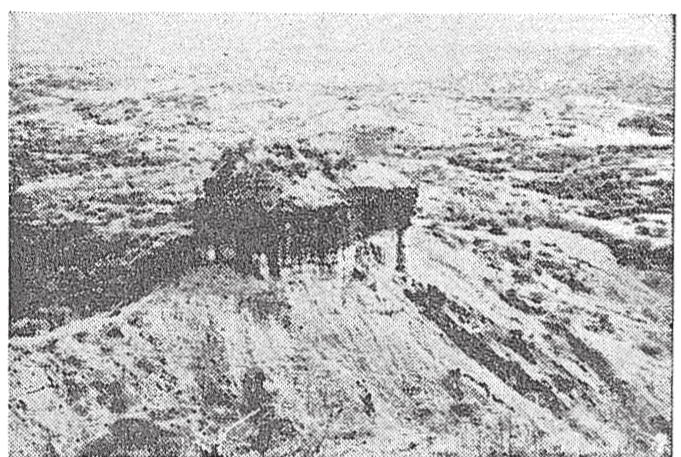
「遠い夏」は、遠くを歩いた人々の足音を聞きながら、懐かしい情景が脳裏に浮かぶ。昔、遠くを歩いた人々の足音を聞きながら、懐かしい情景が脳裏に浮かぶ。

## 南仏の旅

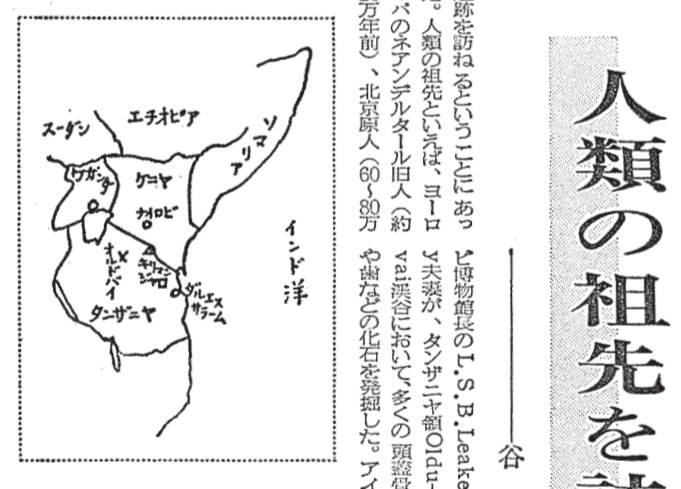
藤 田 八

「南仏の旅」は、南フランスの美しい風景と文化を堪能する旅記。ここでは、南フランスの美しい風景と文化を堪能する旅記。ここでは、南フランスの美しい風景と文化を堪能する旅記。

南フランスの美しい風景と文化を堪能する旅記。ここでは、南フランスの美しい風景と文化を堪能する旅記。



多数の調査骨や歯などの化石が発掘された Olduvai 峡谷



人類の祖先を訪ねて。南アフリカの旧人類化石発掘現場「Olduvai 峡谷」をめぐります。ここでは、人類の祖先の生活の痕跡が数多く発見されています。

人類の祖先を訪ねて。南アフリカの旧人類化石発掘現場「Olduvai 峡谷」をめぐります。ここでは、人類の祖先の生活の痕跡が数多く発見されています。

## 人類の祖先を訪ねて

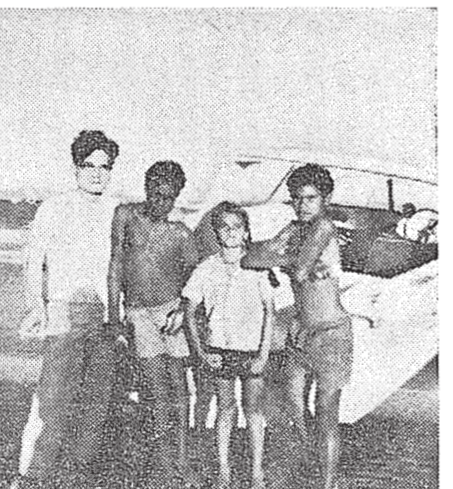
人類の祖先を訪ねて。南アフリカの旧人類化石発掘現場「Olduvai 峡谷」をめぐります。ここでは、人類の祖先の生活の痕跡が数多く発見されています。

人類の祖先を訪ねて。南アフリカの旧人類化石発掘現場「Olduvai 峡谷」をめぐります。ここでは、人類の祖先の生活の痕跡が数多く発見されています。

## 南の海から

南の海から。南アフリカの旧人類化石発掘現場「Olduvai 峡谷」をめぐります。ここでは、人類の祖先の生活の痕跡が数多く発見されています。

南の海から。南アフリカの旧人類化石発掘現場「Olduvai 峡谷」をめぐります。ここでは、人類の祖先の生活の痕跡が数多く発見されています。



人類の祖先を訪ねて。南アフリカの旧人類化石発掘現場「Olduvai 峡谷」をめぐります。ここでは、人類の祖先の生活の痕跡が数多く発見されています。

# 近い夏



「近い夏」は、身近な夏の情景を捉えた作品。ここでは、身近な夏の情景を捉えた作品。ここでは、身近な夏の情景を捉えた作品。

「近い夏」は、身近な夏の情景を捉えた作品。ここでは、身近な夏の情景を捉えた作品。



時間も忘れてしまうほど素晴らしい野外音楽



陸上競技部。陸上競技部の選手たちが、日々の練習に励んでいる様子。ここでは、陸上競技部の選手たちが、日々の練習に励んでいる様子。

陸上競技部。陸上競技部の選手たちが、日々の練習に励んでいる様子。ここでは、陸上競技部の選手たちが、日々の練習に励んでいる様子。

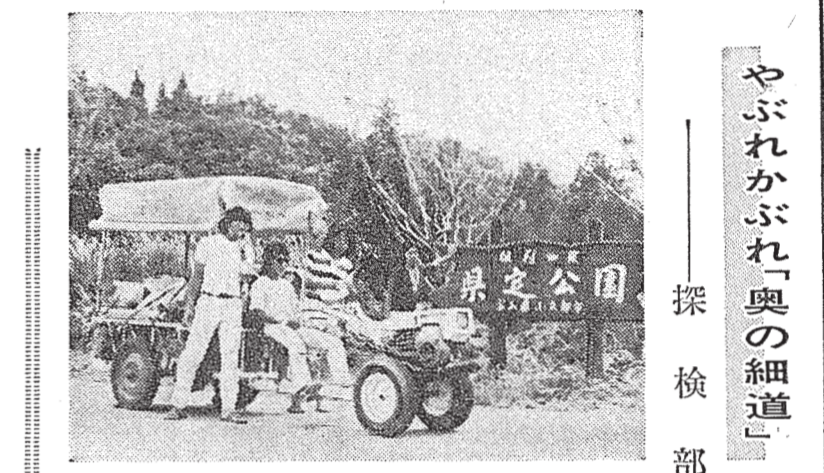
## 記録への挑戦

記録への挑戦。陸上競技部の選手たちが、日々の練習に励んでいる様子。ここでは、陸上競技部の選手たちが、日々の練習に励んでいる様子。

記録への挑戦。陸上競技部の選手たちが、日々の練習に励んでいる様子。ここでは、陸上競技部の選手たちが、日々の練習に励んでいる様子。

「やぶれかぶれ」奥の細道。奥の細道の情景を捉えた作品。ここでは、奥の細道の情景を捉えた作品。

「やぶれかぶれ」奥の細道。奥の細道の情景を捉えた作品。ここでは、奥の細道の情景を捉えた作品。



やぶれかぶれ「奥の細道」

探検部。探検部の活動の様子。ここでは、探検部の活動の様子。

探検部。探検部の活動の様子。ここでは、探検部の活動の様子。



カラフルな熱帯魚の間をスイスイ……

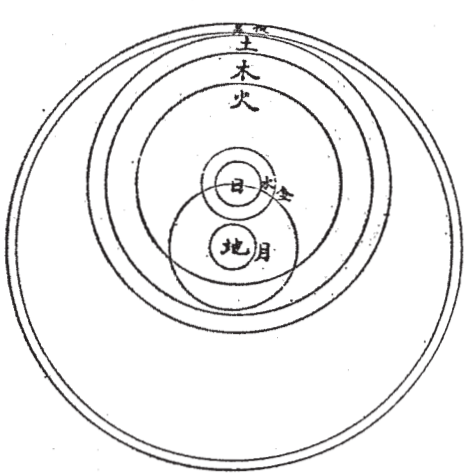
スクューバダイビング同好会。スクューバダイビング同好会の活動の様子。ここでは、スクューバダイビング同好会の活動の様子。

スクューバダイビング同好会。スクューバダイビング同好会の活動の様子。ここでは、スクューバダイビング同好会の活動の様子。

## 奄美・海中のパノラマ

奄美・海中のパノラマ。奄美の海中風景を捉えた作品。ここでは、奄美の海中風景を捉えた作品。

奄美・海中のパノラマ。奄美の海中風景を捉えた作品。ここでは、奄美の海中風景を捉えた作品。



# 西洋を中国のために

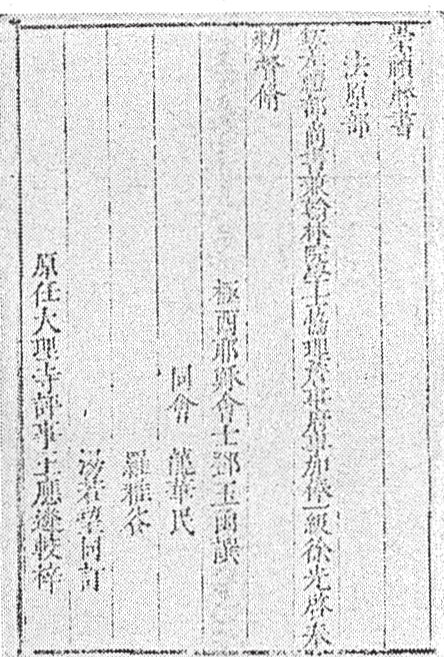
## 二つの科学の融合と徐光啓の役割

橋本 敬造

「西洋の強國するまゝ」もな  
たものであった。それは一六  
〇年代の初頭のことである。  
ヨーロッパにおける科学革命  
の動きは、不完全ながら、シ  
ェンが古来ギリシアの西方に  
おける宇宙観を一八〇度転換  
して、いわゆる科学革命の先導的  
役割を果たした。この後、後述  
するように、普遍性を

### 曆体系の改革に尽力

もつ近代科学への脱皮が急速に  
進んでいた西洋科学の一段階  
のそれを受容した。いも受容せ  
ざるを得なかった当時の中国科  
学にとっては、重大な結果を生  
じることになった。  
大航海時代の開始以来、海外  
に膨張するヨーロッパの先兵的  
役割を果たした。このように、  
もな、イサナチウス・ロヨラ  
が設立したイエズス会が、  
カトリック教会のハード・コ  
アを形成した。イエズス会  
であった。東アジアへの進出は  
フランシスコ・サビエルが、  
到着した。その知識の伝播は、  
中国の科学の歴史にと  
うもであった。当時、授時  
曆の完成からほぼ三百年が経過  
して、この重要なものはマテオ  
・リッチ(中国名は利瑪竇、一  
五五二-一六一〇)であった。  
一見、無意味と見える改曆に  
の改革の現実に尽力した最



「崇禎曆書」明末初刊本  
(中国科学院图书馆蔵)

原任大理寺評事 主簿 徐光啓  
同會 董華民  
羅雅谷  
湯若望同訂

リッチの中国到着の少し前  
から、中国の天文学は重大な  
危機を迎えていた。それは、中  
國歴代の王朝にとって、きわめ  
て重要な位置を占めていた曆の  
精度にかかわるものであった。  
明代の大統曆という天文曆法  
は、征服王朝の元の時代に、鄭  
守敬らが集大成したものであ  
り、中国の伝統的天文学がそ  
の現存が、法王庁側の事情を引  
き去って、それを説明して、  
れるものであった。この改曆、受容  
の過程の分析が、それに先行し  
て行なわれ、その後に、  
中国に入っていたイスラム天文  
学(中国に伝えられたテオ・  
プラハの修正宇宙(古代ギリ  
シアのアリスタルコス)の  
それとの類似に注意)

学の助けを借りねばならない状  
態であった。以来、繰り返しが  
層の必要性が唱えられながら  
も、旧体系の保守を主張する保  
守派の学者官僚は、つねにそ  
の動向を抑えて成功してき  
てきた。十六世紀の後半になると、  
かしながら、後漢時代に幾何学  
想と結びついて生まれた改曆の  
必然性を正当化する考え方が  
、明王室の流を汲み取り、  
て復活するまでになった。そ  
れは、要するに、前の改曆から  
三百年たてば、新たな曆を制定  
しなればならぬという  
うもであった。当時、授時  
曆の完成からほぼ三百年が経過  
して、この重要なものはマテオ  
・リッチ(中国名は利瑪竇、一  
五五二-一六一〇)であった。  
一見、無意味と見える改曆に  
の改革の現実に尽力した最

中国では「歴史は諸学の女王  
であった」(J・ニーダムの言  
葉)が、それは天文学者の理論  
へのアプローチの仕方にも強く  
反映していた。かれらは早くか  
ら、天文学の発展を天文学体系  
の理論とその基本概念的精度の  
上昇という側面から把握してき  
た。それは観測の精度の向上と  
そのデータの整理によって中  
國の南北の時代から現れ、  
宋代・元代の科学者にとって  
は、すでに常識化した概念であ  
った。  
明代の末期の徐光啓は、この  
した中国天文学の特徴が生みだ  
した方法論をも一度整理しな  
おして、西方の天文学史も  
同様の観点に立って把握して  
いる。プロレトマス・コペルニ  
クス、さらにはテオプラハにつ  
て、天文学の知識はますます精  
度の高いものとなっていった。  
最近、望遠鏡が作られ、それま  
で知られなかった微細な天体現  
象も明らかになってきた。中国  
と同様、西洋でも科学は過去か  
ら現在へとその精度を高めてき  
た。とりわけ、穀谷(「テオ・  
プラハ」)の観測は精度が高い。  
したがって、それを改曆の理論  
的な基本体系に採用し、曆とい  
う伝統的な表現型を与える。  
このように、科学の歴史を精  
度の非可逆的な上昇曲線として  
認識する徐光啓は、西洋科学の  
導入のイニシアチブをとり、併  
せてその正当化を歴史の必然性  
の側面から行なったのである。  
(一九七七年八月、ヒュン  
ムラウ)

### 新刊紹介

「人間・仮面と真実」  
(三ツル社・二八〇〇円)  
「語順と文法」  
(関西大学出版・広報部  
四五〇〇円)  
「貨物海上保険の実務」  
(文芸春秋社・一三〇〇円)  
「転換期の企業労務」  
(三ツル社・一三〇〇円)  
「人間・仮面と真実」  
これは「真の人間(ハルン  
ン)」を求めての心たななな  
人間探求の書である。著者は、人  
間の外面にあらわれた「見せか  
けの姿(ハルンナッシュ)」と  
その背後にかざされた「真の人間  
(ハルンン)」をめぐる人間の  
内面が、生命現象と生命その  
もの関係、もしくは、心理  
現象と精神そのものとの関係  
に、きわめてよく対応するとい  
を心算にまことに興奮して記せ  
てある。  
本書は著者の学位論文「現代  
日本語の語順」に続く、いわば  
姉妹編とも言えるものである。本  
書の構成は「語順編」と「文法  
編」とからなり、両編にはあわ  
せて百編の論文が収められてい  
る。「語順編」には「語順研究  
の方向とその意義」「現代教語  
の位置」「複文における題目語  
の位置」等、語順研究の意義や  
語順の原理が考究された論文  
と、文法論の考察を意図した  
「言葉の語順」や「真命にお  
ける語順意識」等の論文が収め  
られている。一方、「文法編」  
に収められた論文は「接続詞の  
機能」や「「い」か」と「  
ぞ」等、現代の文法・語法に  
かわるものとして「い」か  
「ぞ」等、文法・文法・語法・文  
法にかかわる論文である。これ  
等の論文を讀んで、私は、日常  
使う言葉や、平素見聞きする表  
現や語法等に対して意外なほど  
無知のままに生きていたことを  
痛感した。  
語順のまをから生ずる不明  
瞭な文章、文法的誤り等々、日  
本語の乱れがさげはれる今日、  
日本語の慣用を確認する意味か  
ら本書は読者にたいして、  
(伊藤誠哉)  
「貨物海上保険の実務」  
本書は貨物海上保険をわかり  
やすく、かつ実用的に解説され  
た入門書である。とくに海上保  
険の書物は難解で、学生諸君は  
もつと、貿易業務に直接また  
間接に携わっている人が読んで  
も、理解しやすいものが多く、  
本書はその点を十分配慮して書  
かれたものといえる。  
本書は外国運送貨物を対象と  
する貨物海上保険すなわち航  
空西の研究を通じて、相次い  
で公刊されている成果には、目  
を見張らせるものがある。本書  
もその一冊である。本書は、  
専門的研究者による共同の成果で  
ある。本書の特徴は、世界的に  
進行している資本主義世界の火  
き互恵的転換期に焦点をあわ  
せ、転換期における企業労務・  
ユーマニスティックな香り高い  
原書が、流麗な邦文に訳出され  
たことを心から喜びたい。  
(友松芳郎)  
「語順と文法」  
本書は著者の学位論文「現代  
日本語の語順」に続く、いわば  
姉妹編とも言えるものである。本  
書の構成は「語順編」と「文法  
編」とからなり、両編にはあわ  
せて百編の論文が収められてい  
る。「語順編」には「語順研究  
の方向とその意義」「現代教語  
の位置」「複文における題目語  
の位置」等、語順研究の意義や  
語順の原理が考究された論文  
と、文法論の考察を意図した  
「言葉の語順」や「真命にお  
ける語順意識」等の論文が収め  
られている。一方、「文法編」  
に収められた論文は「接続詞の  
機能」や「「い」か」と「  
ぞ」等、現代の文法・語法に  
かわるものとして「い」か  
「ぞ」等、文法・文法・語法・文  
法にかかわる論文である。これ  
等の論文を讀んで、私は、日常  
使う言葉や、平素見聞きする表  
現や語法等に対して意外なほど  
無知のままに生きていたことを  
痛感した。  
語順のまをから生ずる不明  
瞭な文章、文法的誤り等々、日  
本語の乱れがさげはれる今日、  
日本語の慣用を確認する意味か  
ら本書は読者にたいして、  
(伊藤誠哉)  
「貨物海上保険の実務」  
本書は貨物海上保険をわかり  
やすく、かつ実用的に解説され  
た入門書である。とくに海上保  
険の書物は難解で、学生諸君は  
もつと、貿易業務に直接また  
間接に携わっている人が読んで  
も、理解しやすいものが多く、  
本書はその点を十分配慮して書  
かれたものといえる。  
本書は外国運送貨物を対象と  
する貨物海上保険すなわち航  
空西の研究を通じて、相次い  
で公刊されている成果には、目  
を見張らせるものがある。本書  
もその一冊である。本書は、  
専門的研究者による共同の成果で  
ある。本書の特徴は、世界的に  
進行している資本主義世界の火  
き互恵的転換期に焦点をあわ  
せ、転換期における企業労務・

「編集後記」  
今年の夏は、天候がよく、  
不順だった。東京では半月  
あまりの雨が降り続いたかと  
思った。大阪では雨が少な  
く、淀川の取水制限がはじ  
まりました。有珠山の噴火  
も自然の力をうかがうべき  
自然の出来事だった。夏休み  
が終わり、秋の生活がはじま  
る。本書のトップには橋本先  
生の美しい文章をかきおろ  
がされた。また、本書では遠  
く海外から寄せられた通信  
が多くありました。どうもあ  
りがたうございました。  
四面・五面に  
掲載の写真は、  
毎日新聞社の提供です。  
(来住哲三)